

さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会

発表要旨



調査状況（南中丸下高井遺跡）

日時 令和2年9月19日（土）10時～11時45分
会場 大宮北公民館 レクリエーションホール
主催 さいたま市教育委員会
協力 さいたま市遺跡調査会

プログラム

9時45分	開場・受付開始
10時00分	開会あいさつ
10時05分	発表①「内道西遺跡（第7次）」 さいたま市教育委員会 主任 橋本 玲未 2頁
10時30分	発表②「真福寺貝塚（K・L地点）」 さいたま市教育委員会 主査 吉岡 卓真 4頁
11時10分	発表③「中野田中原遺跡（第9次）」 さいたま市遺跡調査会 主任調査員 山田 尚友 6頁
11時40分	閉会あいさつ
<紙上発表>	④「側ヶ谷戸貝塚（第12次）」 さいたま市遺跡調査会 主任調査員 石原 祐介 8頁
<紙上発表>	⑤「南中丸下高井遺跡（第5次）」 さいたま市教育委員会 主査 吉岡 卓真 10頁
<紙上発表>	⑥「相野谷2号遺跡（第1次）」 さいたま市教育委員会 主任 橋本 玲未 12頁
<紙上発表>	⑦「白鍬宮腰遺跡（第18次）」 さいたま市教育委員会 主事 山川 瞳 14頁
<紙上発表>	⑧「別所遺跡（第12・13次）」 さいたま市遺跡調査会 調査員 立川 愛絵 16頁

自由参加

13時00分～

「最新出土品展 2020」 展示解説 市立博物館「特別展示室」

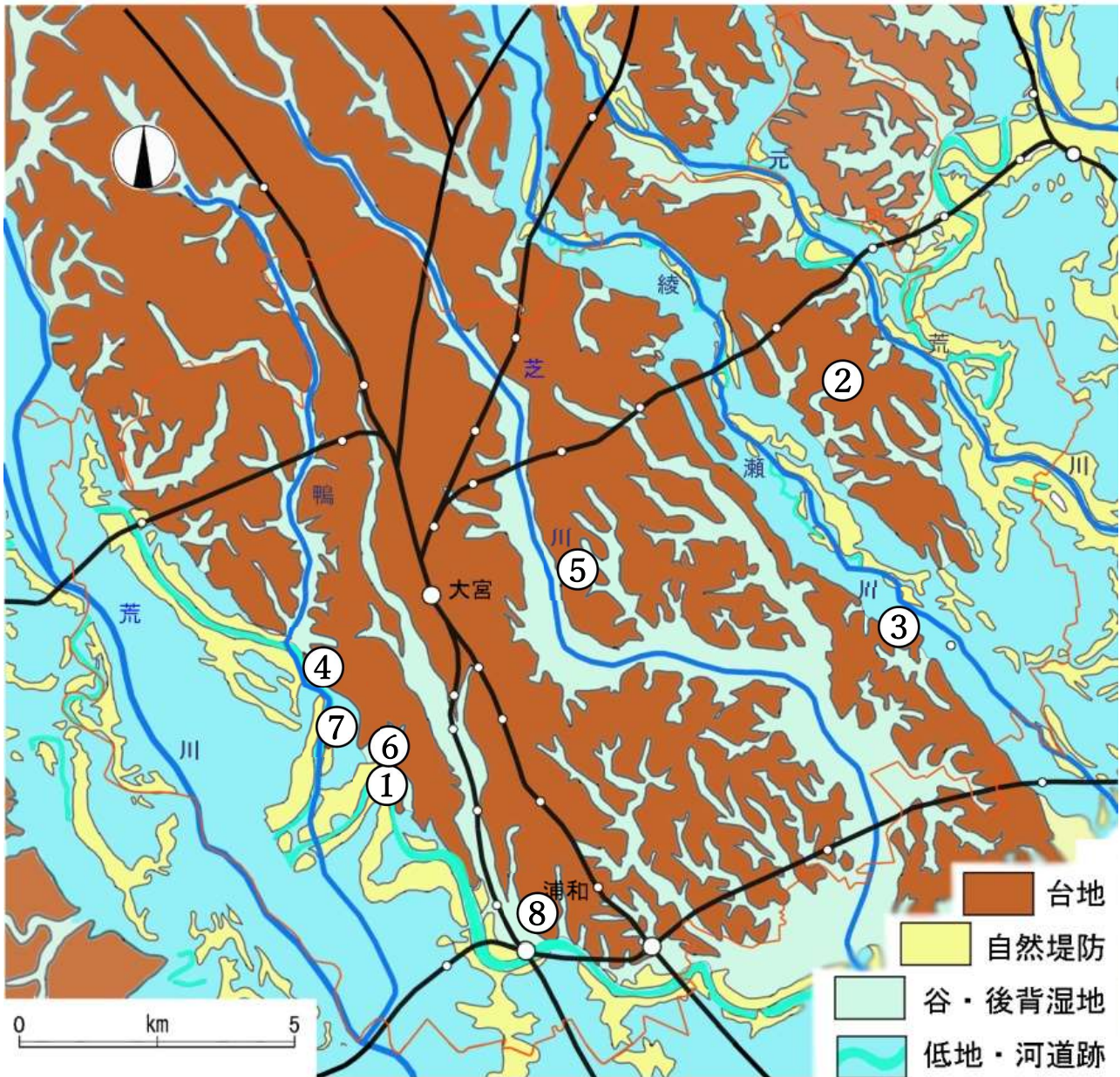
※コロナ感染拡大防止のため、入室定員は13名（解説者含む）となっています。
定員を超えた場合は、入替制で実施しますので御了承ください。



さいたま市PRキャラクターつなみ龍スウ

発表遺跡とさいたまの地形

① 内道西遺跡 (中央区)	⑤ 南中丸下高井遺跡 (見沼区)
② 真福寺貝塚 (岩槻区)	⑥ 相野谷2号遺跡 (中央区)
③ 中野田中原遺跡 (緑区)	⑦ 白鍬宮腰遺跡 (桜区)
④ 側ヶ谷戸貝塚 (大宮区)	⑧ 別所遺跡 (南区)



【令和元年度データ】

■さいたま市の総面積	217.49km ²
■さいたま市の遺跡数	1,128ヶ所
■さいたま市内発掘調査件数	19件 (さいたま市教育委員会6件、さいたま市遺跡調査会12件、日本大学1件)
■さいたま市内試掘・確認調査等件数	255件

内道西遺跡（第7次）の発掘調査

さいたま市教育委員会 主任 橋本 玲未

1. 所在地 さいたま市中央区上峰2丁目
2. 調査主体 さいたま市教育委員会
3. 調査担当者 永瀬史人 鈴木久雄
4. 調査目的 個人住宅建設に伴う発掘調査
5. 調査期間 2019年3月26日～4月19日
6. 調査面積 75.04 m²
7. 遺跡の立地と環境

内道西遺跡は、さいたま市中央区上峰2丁目、JR 埼京線与野本町駅から西南西に約1kmの距離に所在する。大宮台地の西縁に位置し、遺跡内の標高は約12～13mである。南側に隣接する諏訪坂遺跡、東側の内道東遺跡、北側の相野谷1号遺跡・相野谷2号遺跡にかけて、縄文時代早期から平安時代にかけての遺跡が分布している。

今回の調査区は、遺跡内でも台地の西端に近い位置にあり、南側の道路を挟んだ向かい側では、過去の確認調査で縄文時代中期の竪穴住居跡などが確認されている。

8. 調査の経過

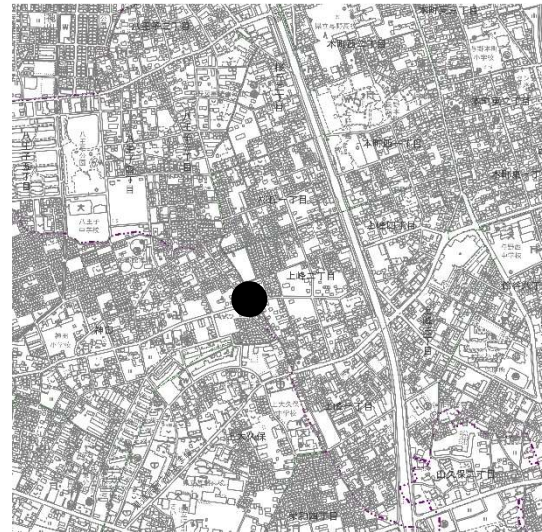
調査区は北東、北西、南西の3区画に分けて、この順に表土除去及び調査を行った。現地表面から遺構確認面までの深さは約40cmである。遺構は各時代のものが重複している様子がみられ、それぞれの新旧関係の把握を行いながら覆土の掘削を行った。

9. 調査の成果

確認された遺構は、縄文時代の炉跡1基、ピット、弥生時代の竪穴住居跡1基、古墳時代の竪穴住居跡1基、中世以降とみられる溝1条、竪穴状遺構1基である。

縄文時代の炉跡は、北西側調査区の確認面上で検出された。北半分は後述の溝に切られており、南半分のみが残存していた。周囲にはピットも多く検出されており、掘り込みが浅い、あるいは平地式の住居跡とみられる。炉跡の南東側では、縄文時代中期の土器を伴う土坑が検出されており、同時期の遺構である可能性も考えられる。

弥生時代の住居跡（第4号住居跡）は北西・南西側調査区にまたがって検出された。平面形状は



第1図 調査位置図（1/25,000）

直径約4.5mの円形で、壁周溝を持ち、確認面から床面までの深さは約60cmを測る。床面には貼床が認められ、中央よりやや北側に炉跡がみられた。住居跡の形態や出土した遺物から、弥生時代後期の住居跡と思われる。

古墳時代の住居跡は東側調査区で検出された。北側と西側の壁が調査区内に位置し、東側は調査区外に続く。後述の溝に切られているほか、南側は攪乱や竪穴状遺構で破壊されており南壁は検出されなかった。壁周溝を持ち、床面には柱穴とみられるピットも複数検出された。遺物の出土は少なく、また大半が縄文土器の破片であったが、土師器の破片も出土しており、古墳時代の遺構と考えられる。

溝は東西方向に延びており、重複する他の遺構よりも新しい。覆土の様相や陶磁器等の出土遺物から、中世以降の遺構と思われる。

10. まとめ

内道西遺跡のこれまでの発掘調査は、今回の調査地点より南側で実施されており、今回の調査で縄文時代中期及び弥生時代後期、古墳時代の集落域の北側への広がりが明らかとなった。



写真1 弥生時代後期の住居跡（南側）



写真2 弥生時代後期の住居跡（北側）



写真3 縄文時代中期の遺物出土状況
（土坑）



写真4 古墳時代の住居跡と柱穴



写真5 北東側調査区の調査実施状況
（中央付近に縄文時代の炉跡）



写真6 中世以降の溝（東側調査区）

しんぶくじ
真福寺貝塚 (K・L地点) の発掘調査

さいたま市教育委員会 主査 吉岡 卓真

1. 所在地 さいたま市岩槻区城南3丁目
2. 調査主体 さいたま市教育委員会
3. 調査担当者 吉岡卓真
4. 調査目的 史跡整備事業
5. 調査期間 2019年6月25日～2020年1月7日
6. 調査面積 87 m²
7. 調査に至る経緯

さいたま市では、国指定史跡である本遺跡を整備するための事業の一環として、平成28年度から史跡内の発掘調査を継続している。令和元年度からは、低湿地（泥炭層）を有する史跡西側の調査を開始した。

今回の調査地点は、これまでに貝塚や住居跡が確認された史跡東側の居住域と、史跡西側に広がる谷部（低湿地）をつなぐ中間地点の西側にあたる。

調査区は、居住域側から谷部の方向に、2カ所設定し、谷の縁辺部や、居住域内側に広がる窪地内の土地利用状況を解明するための調査を行った。

8. 遺跡の立地と環境

さいたま市の東部、東武アーバンパークライン岩槻駅から南東約1.6km、岩槻区城南3丁目に所在する。遺跡の標高は、貝塚や住居跡が所在する遺跡東側で約13m、かつて藍胎漆器や木製品が出土した西側の谷部（低湿地）で約9mを測る。

9. 調査の経過

調査は、泥炭層遺跡発見の契機となり、現在も谷の中に所在する、溜池を挟んで、北側と南側の2ヶ所を中心に実施した。

調査区の規模は、幅約1～2m、長さは北側が51m、南側が20mである。北側の調査区は、かつて谷部で行われた泥炭層調査地点周辺と、平成30年度まで実施した窪地内の調査地点をつないでいる。そして南側は、台地部から谷の縁辺部を中心とする。



第1図 調査位置図 (1/25,000)

10. 調査の成果

北側の調査区では、平成30年度の調査区に近い東側を中心に、晩期中葉の黒色土が厚く堆積しており、一部、土器が局所的に集積する様相が認められた。なお窪地内の地山は、調査区東端から中間までは、概ね谷のある西側へ向けて傾斜するが、調査区の間から谷の手前では、一転して緩やかに立ち上がるなど、現在の地表面とは異なる地形の起伏があることが明らかとなった。また谷の縁辺部では、晩期前葉の時期に、土器を多量に含む暗褐色土層と、あまり遺物を含まない黄褐色土層が互層をなし、谷を埋積する様相が認められた。

南側の調査区でも、谷の縁辺部にて、後期中葉の貝層と、後期中葉から後葉を主体とする土層が谷部を埋積する様相を確認した。さらに谷に接する台地上からは後期前葉の住居跡を検出した。

11. まとめ

今回の調査により、居住域の広がりや、従来の想定よりも、史跡西側の谷部周辺にまで広がることや、谷の縁辺部では、土器や獣骨を含む厚い土層や貝層により、谷部を積極的に埋積し、谷の傾斜を緩やかなものにした様子が認められ、活発な土地利用が行われていたことが明らかとなった。



写真1 谷を埋積する貝層と遺物包含層 (南側調査区)



写真2 窪地内の土器出土状況 (北側調査区)



写真3 谷縁辺部の調査状況 (北側調査区)



写真4 谷部遺物出土状況 (南側調査区)



写真5 住居内出土土器 (南側調査区)

中野田中原遺跡(第9次)の発掘調査

さいたま市遺跡調査会 主任調査員 山田 尚友

1. 所在地 さいたま市緑区大字中野田
2. 調査主体 さいたま市遺跡調査会
3. 調査担当者 山田尚友 柳田博之 石原祐介
4. 調査目的 土地区画整理事業に伴う発掘調査
5. 調査期間 2019年9月17日～12月25日
6. 調査面積 739 m²
7. 遺跡の立地と環境

さいたま市の東部、大宮台地鳩ヶ谷支台の一舌状台地上に立地する。東側には綾瀬川の右岸に広がる沖積低地があり、北側と南側にはおぼれ谷が入り込んでいる。

周辺では東側に縄文時代中期と弥生時代後期、平安時代の住居跡が発見されている中野田島ノ前遺跡や縄文時代前期、弥生時代後期や平安時代の住居跡が検出された中野田堀ノ内遺跡がある。南東側の谷を挟んで、弥生時代中期～古墳時代前期の集落跡である下野田本村遺跡、弥生時代後期と平安時代の集落跡である下野田稻荷原遺跡がある。

8. 調査の経過

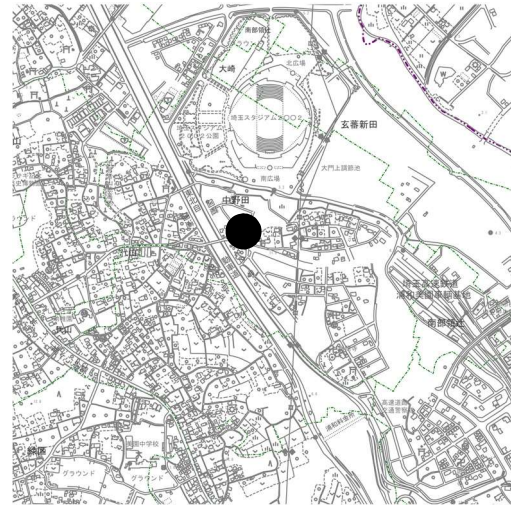
調査は全面表土を重機により削去した後、遺構の調査を実施した。表土を削去した結果、住居跡などを検出した。

9. 調査の成果

調査区は第5次調査の西側、遺跡の西端に当たるところで、縄文時代の住居跡2基・土坑22基、弥生時代後期住居跡11基、中世火葬跡15基、近世以降溝2条などを検出した。

縄文時代の住居跡は出土遺物があまりなく時期を確定できない。検出された土坑のうち3基は落とし穴であった。

弥生時代後期の住居跡は規模で分けると、大型、中型、小型があり、大型住居跡3基は火災住居である。第126号住居跡はこの遺跡のこれまでの調査の中で規模の大きい住居跡の一つに当たる。また、第127号住居跡では炉跡が火皿になっていることが特徴的である。大型の第122号、126号住居跡は近接しており、また小型の住居跡では



第1図 調査位置図(1/25,000)

重複関係がみられ、数期にわたって集落が営まれたことが明らかになった。

中世の火葬跡については本遺跡では初めての検出であるが、遺存状態が悪く、本来の形をとどめないものが多い。第3号火葬跡では瀬戸系の陶器平碗が出土しており、15世紀後半の遺構と考えられる。第7号火葬跡ではかわらけ、第10号火葬跡では銭貨が出土している。全体として、炭化材は残るものの、焼骨の検出量が少ないことから、火葬墓とするよりは火葬施設と考えられる。又、周辺では板碑片が出土した。

10. まとめ

今回の調査では縄文時代・弥生時代後期の住居跡や中世の火葬跡など様々な時期の遺構が検出された。



写真1 調査区完掘状況



写真2 弥生時代後期の住居跡



写真3 縄文時代の土坑
(落とし穴)



写真4 中世の火葬跡

側ヶ谷戸貝塚 (第12次)

さいたま市遺跡調査会 主任調査員 石原 祐介

1. 所在地 さいたま市大宮区三橋四丁目
2. 調査主体 さいたま市遺跡調査会
3. 調査担当者 石原祐介 山田尚友 柳田博之
4. 調査目的 分譲住宅建設に伴う発掘調査
5. 調査期間 2019年4月1日～11月2日
6. 調査面積 874.83 m²
7. 遺跡の立地と環境

側ヶ谷戸貝塚は JR 大宮駅から南西に約2.5 kmに位置し、遺跡範囲の北端にはさいたま市立大宮国際中等教育学校(旧大宮西高等学校)が立地している。西側約500mには鴨川が蛇行して流れている。地形的には大宮台地日進与野支台の西側で、南側に突出した小台地上に立地している。本調査区域は遺跡内では中央部のやや南寄りに位置する。調査区域の地表における標高は12m前後で、遺跡範囲外で南西側の低地との比高は約3.9 mを測る。

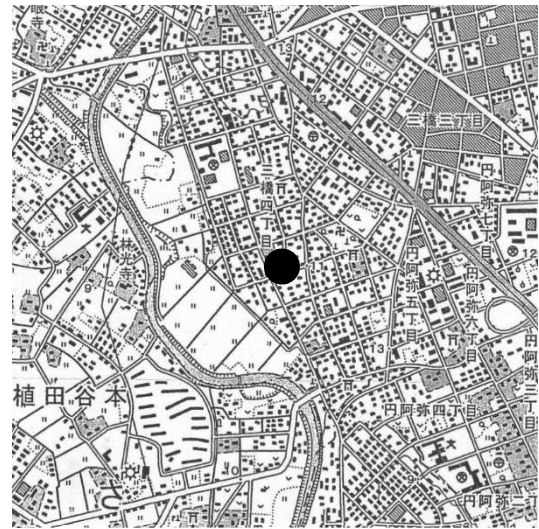
8. 調査の経過

排土置き場の関係上、北側と南側の2区に分けて調査を実施している。

9. 調査の成果

今回の発掘調査は第12次の調査に該当し、遺構としては縄文時代の住居跡1基・土坑7基・ピット群、縄文時代前期関山式期の住居跡3基・土坑3基、縄文時代前期諸磯式期の住居跡3基・土坑4基、縄文時代中期加曾利E式期の住居跡2基、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭頃の住居跡8基・土坑3基、古墳時代後期の古墳跡周溝2条、土坑1基が検出されている。

縄文時代前期関山式期の住居跡は3基中2基(第3・14号住居跡)が貝層を伴っており、第14号住居跡は貝層が厚いところでは約30cm堆積している。弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭頃の住居跡では8基中5基の住居跡で重複関係が確認され、また3基の住居跡では周縁部に段状の施設(ベット状遺構か)が検出されている。調査区南側から中央部にかけては、古墳時代後期と比定される円墳の周溝跡が重複して2基検出さ



第1図 調査位置図(1/25,000)

れ、南側の第18号墳周溝は中央部の第19号墳周溝及び陸橋部分を一部壊して構築されている。第19号墳周溝内では円筒埴輪片や完形の土師器が出土しており、6世紀後半頃の時期が比定される。第18号墳周溝内では様々な時期の土器が出土しているが、混入した遺物と比定される。他の遺構との重複関係から7世紀代の時期が比定される。また、古墳時代後期と比定される第7号土坑は北側の第19号墳周溝の内部で検出され、鉄製品の刀子などが出土している。竪穴状を呈する第19号墳の古墳主体部の可能性がある。

10. まとめ

今回の調査では側ヶ谷戸貝塚として新たに貝層を伴う住居跡2基が検出され、遺跡範囲中央部付近にも貝塚が存在することが確認できた。弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡は本調査区西側の第4次調査や本調査区南側の第11次調査でも検出されており、中央部付近での集落の拡がり新たに確認された。側ヶ谷戸古墳群としては第18・19号墳の古墳跡は周溝2基が検出されたが、側ヶ谷戸古墳群内で初めて古墳同士での重複関係が確認され、本調査区付近は古墳跡が密集して構築されている可能性がある。



写真1 調査区南側全景



写真2 第14号住居跡貝層検出状況



写真3 第19号墳周溝土器出土状況



写真4 第7号土坑刀子出土状況

南中丸下高井遺跡（第5次）の発掘調査

さいたま市教育委員会 主査 吉岡 卓真

1. 所在地 さいたま市見沼区大字南中丸
2. 調査主体 さいたま市教育委員会
3. 調査担当者 吉岡卓真 鈴木久雄 山形洋一
4. 調査目的 個人住宅建設に伴う発掘調査
5. 調査期間 2020年3月3日～3月30日
6. 調査面積 66.52 m²
7. 遺跡の立地と環境

さいたま市の中央部、JR大宮駅から東に約2.4 kmに所在する。遺跡は西に芝川をのぞむ大宮台地片柳支台の西縁に位置し、標高は約16m、西側の見沼低地との比高差は約12mを測り、台地縁辺部は急峻な斜面地を形成する。

本遺跡は縄文時代中期後葉を主体とする集落跡で、その範囲は東西約150m、南北約250mである。なお、遺跡南端で実施された1次調査では、縄文時代前期後葉の貝層を伴う住居跡や、古墳・平安時代の住居跡も確認されている。

遺跡周辺では、片柳支台西縁に沿って、縄文時代中期に前後する時代の居住痕跡が確認されており、南約300mの位置には、縄文時代前期後葉の貝塚や住居跡が確認された中川貝塚、北約600mには縄文時代後期初頭～前葉の住居跡が確認されたA-69号遺跡が所在する。

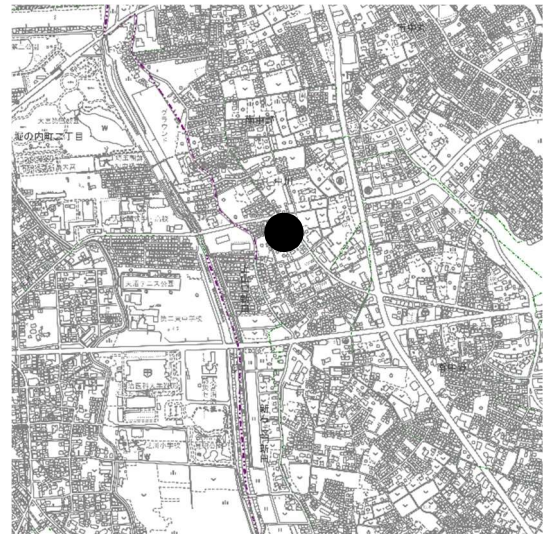
8. 調査の経過

調査は排土置き場の都合により、南側部分と、北側および西側部分に分けて実施した。調査はまず、確認調査で住居跡の存在が確認された南側から開始し、その後、北側及び西側部分についてL字形の調査区により調査した。

9. 調査の成果

今回の調査で検出した遺構は、縄文時代中期の住居跡3軒、土坑9基である。遺物は180平ケースで16箱分出土した。

南側調査区では、縄文時代中期後葉加曾利E I式期の住居跡を1軒検出した。住居跡の主軸は北-南にあり、南端では埋設土器を伴い、住居中央とその北側から炉跡を2ヶ所確認した。炉跡のうち、北側のものは、土器の上半部を再利用した土器埋設炉である。なお、支柱穴は4本であるが、



第1図 調査位置図 (1/25,000)

周囲にはそれぞれ、別の柱穴が存在し、複数回の建て替えが想定される。

そして、その想定を裏付けるように南端で検出した埋設土器の一部は、拡張後に掘られた壁周溝により、南半分が消失していた。

北側および西側調査区では、調査区の北西角から、縄文時代中期中葉勝坂式期の住居跡を2軒重複して検出したが、掘り込みは浅く、大部分は調査区外に広がることを確認した。

10. まとめ

本遺跡では、これまで4次にわたる調査が行われ、多数の住居跡が確認されてきたが、その調査地点はいずれも遺跡範囲の中央から南側に位置していた。本地点は、これまでの調査地点に比べて遺跡内のやや北側に位置していたが、これまでと同様、縄文時代中期の住居跡が複数確認された。

したがって、当該期の集落範囲が本地点周辺にまで広がることが明らかになった。



写真1 住居跡 (南側調査区)



写真2 住居内土器埋設炉 (南側調査区)



写真3 土器埋設炉立ち割り状況 (南側調査区)



写真4 埋設土器検出状況 (南側調査区)



写真5 住居内土器出土状況 (南側調査区)

あいのや
相野谷2号遺跡（第1次）の発掘調査

さいたま市教育委員会 主任 橋本 玲未

1. 所在地 さいたま市中央区上峰2丁目
2. 調査主体 さいたま市教育委員会
3. 調査担当者 橋本玲未 鈴木久雄
4. 調査目的 個人住宅建設に伴う発掘調査
5. 調査期間 2019年4月17日～5月27日
6. 調査面積 200 m²
7. 遺跡の立地と環境

相野谷2号遺跡は、さいたま市中央区上峰2丁目、JR 埼京線与野本町駅から西南西に約1kmの距離に所在する。大宮台地の西縁に位置し、遺跡内の標高は約12～13mである。南側に隣接する諏訪坂遺跡、内道西遺跡、東側の内道東遺跡、西側の相野谷1号遺跡にかけて、縄文時代早期から平安時代にかけての遺跡が分布している。これらの遺跡群の北側には、西側の荒川の谷から支谷が東に向かって入り込んでおり、この支谷から、複数の小支谷が南に入り込み、支谷の間は舌状台地となっている。本遺跡は、西側から一つ目と二つ目の小支谷に挟まれた舌状台地の付け根の部分に位置する。舌状台地の先端にかけては宮前西遺跡が立地しているが、既に住宅地として造成が進んでおり、確認調査によって遺構・遺物が発見された事例はない。

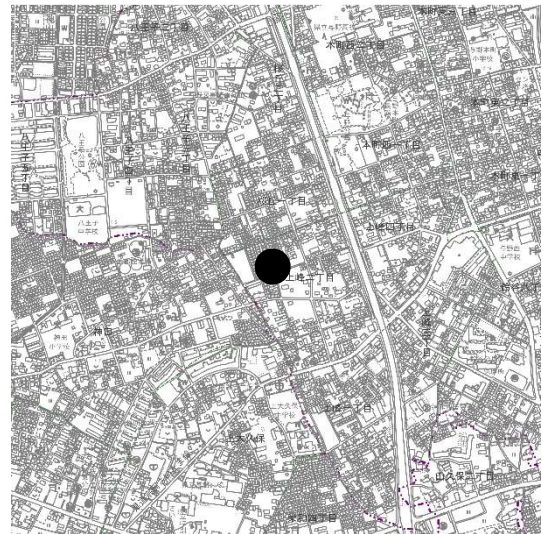
8. 調査の経過

調査区は西側・東側に分割し西側から表土除去及び調査を行った。西側調査区については、確認調査の際に攪乱が著しく調査対象外とした調査区北側部分についても、攪乱の下に遺構が伸びることが判明したため、東側調査区の表土除去と同時に北側への調査区拡大を行った。

9. 調査の成果

確認された遺構は、縄文時代早期のファイアーピット1基、住居跡2基、縄文時代中期の住居跡1基、縄文時代（時期不明）の住居跡1基、土坑35基、中世以降の溝2条である。

縄文時代早期のファイアーピットは調査区の北東端で確認された。丁字状の平面形状を持ち、3箇所先端部分それぞれに焼土の堆積及び内部の被熱硬化がみられた。遺物は縄文時代早期の条痕



第1図 調査位置図（1/25,000）

文土器が出土した。

縄文時代早期の竪穴住居跡2基は調査区の中央北側付近で確認された。残存するのは、それぞれ円形と思われる住居跡の南半分、北側は攪乱（中世の溝等）により失われている。残存部分の掘り込みは浅く、出土遺物も少ないが、縄文時代早期の撚糸文土器、貝殻文土器、条痕文土器の破片が出土した。

縄文時代中期の竪穴住居跡は調査区北西側で確認された。平面形状は東西にやや長い長円形で、一部を中世の溝に切られている。大きさは東西方向約5m、南北方向約3.5mを測る。確認面から床面までの深さは約20cmである。遺物は縄文時代中期、阿玉台式土器が出土しており、住居跡の時期も同時期と思われる。

10. まとめ

今回の調査地点より北側は、北側の支谷に向かって傾斜する地形で、既に造成が行われており、確認調査による遺構等の検出事例もないことから、今回の調査地点が、諏訪坂遺跡・内道西遺跡・内道東遺跡と広がる遺跡群の北端を示すと思われる。遺跡の時代も、これまで縄文時代中期～後期の遺跡の所在が想定されていたが、早期の遺跡についても広がり判明した。



写真1 縄文時代早期のファイアーピット



写真2 ファイアーピット内焼土の断面



写真3 縄文時代早期のファイアーピット（手前）と住居跡（奥）



写真4 縄文時代中期の住居跡

〈紙上発表〉

しらくわみやこし

白鍬宮腰遺跡（第18次）の発掘調査

さいたま市教育委員会 主事 山川 瞳

1. 所在地 さいたま市桜区大字白鍬
2. 調査主体 さいたま市教育委員会
3. 調査担当者 鈴木久雄
4. 調査目的 個人住宅建設に伴う発掘調査
5. 調査期間 2019年11月18日～12月4日
6. 調査面積 28.8㎡
7. 遺跡の立地と環境

白鍬宮腰遺跡は、さいたま市桜区の北西部にあり、現在周知されている範囲は、南北約650m、東西約200mの小判形である。遺跡のすぐ西側を鴨川が流れている。遺跡の標高は約8mから9.5mで、西側の低地との差は約1～2mである。

周辺には市指定史跡の「かね山古墳」・「権現塚古墳」など、古墳時代の遺跡が多く存在しており、特に南東に隣接する白鍬遺跡と本遺跡とは一体のものとして想定される。

8. 調査の経過

調査は住宅建設部分で遺構が検出された範囲を対象として実施した。重機により表土を除去した後、置場の調査を行った。

9. 調査の成果

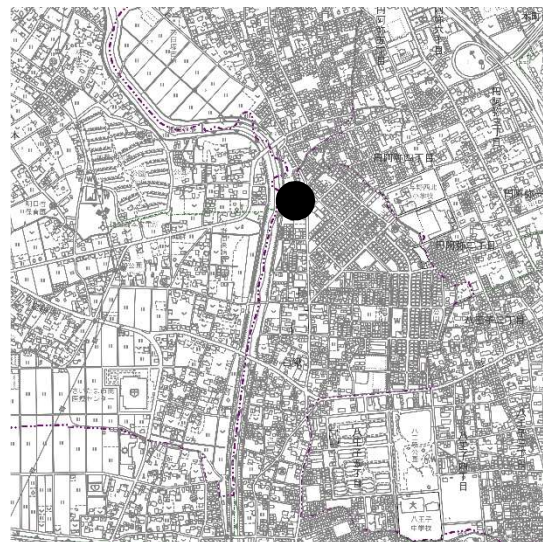
今回の調査区は第11次調査の北側にあたり、また遺跡の北端でもある。

検出された遺構は、古墳時代後期の周溝1条のみで、遺物は180平ケースで3箱分出土した。古墳の周溝は、北西から南東にやや曲線状に延びていた。また南側では遺構の端が確認されたが、北側は調査区外に延びる。周溝の底面は、調査区東側では若干高くなるが、おおむね平坦である。

この周溝からは円筒埴輪の破片が7カ所で出土した。いずれも調査区中央より東側で見つかり、底面より約45cm～70cm上の土層から見つかった。周溝内からは縄文時代中期とみられる縄文土器の大型破片も多く出土した。

調査区の西側付近では、周溝の底面より約20cm～45cmの土層から台付甕の底部が出土した。

10. まとめ



第1図 調査位置図（1/25,000）

今回の調査区からは古墳の周溝が1条見つかった。この周溝に由来する古墳について、南側に所在する市指定史跡の「かね山古墳」との関連が想定されるが、過去の調査結果から判明した溝の方向や規模が異なるため、別の古墳の周溝である可能性が高い。

今回の調査によって白鍬宮腰遺跡の北端まで古墳が存在していたことが分かった。



写真1 調査風景



写真2 周溝の土層



写真3 台付甕の出土状況



写真4 周溝の完掘状況



写真5 円筒埴輪の出土状況 (1)



写真6 円筒埴輪の出土状況 (2)

べっしょ
別所遺跡（第12・13次）の発掘調査

さいたま市遺跡調査会調査員 調査員 立川 愛絵

1. 所在地 さいたま市南区別所2丁目
2. 調査主体 さいたま市遺跡調査会
3. 調査担当者 山田尚友 柳田博之
石原祐介（13次）
4. 調査目的 12次:分譲住宅建設に伴う発掘調査
13次:仮設校舎建設に伴う発掘調査
5. 調査期間 12次:2019年7月8日～2019年9月13日
13次:2019年9月10日～2020年3月19日
6. 調査面積 12次:160㎡
13次:734.0㎡

7. 遺跡の立地と環境

遺跡はJR武蔵浦和駅の真北300m、大宮台地の先端、荒川に面した標高12m程の台地縁辺に立地する。周辺には別所二丁目遺跡、別所子野上遺跡、白幡上ノ台遺跡等が存在する。

8. 調査の経過

調査は重機で表土を削去したのち、手堀での調査を行い、生活跡等を検出した。

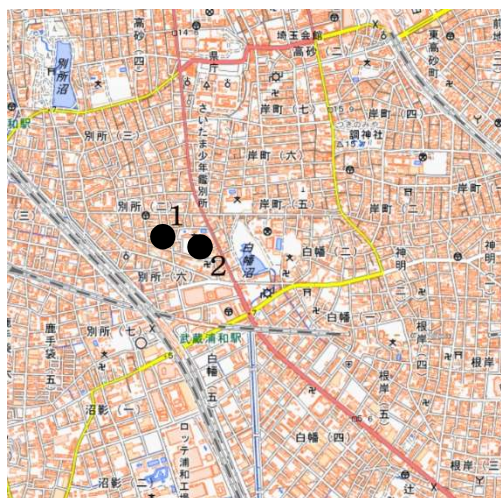
なお、第12次調査では排土の都合上、表土削去を2区に分けて行い、第13次調査では、同じく表土削去を2区に分けて行ったのち、それぞれ空撮を行った。

9. 調査の成果

(1) 第12次調査（第1図-1）

第12次調査では、縄文時代中期の住居跡8基、縄文時代の土坑34基・溝2条、近世土坑1基を検出し、勝坂式土器や縄文時代中期の加曾利E式土器、近世の陶磁器、石製品等が出土している。

①第97号住居跡 調査区隅において長辺4.1m、短辺2.45mの範囲のみ検出された。深さは約50cmである。検出した形状から、五角形を呈すると思われる。炉はやや南寄りに作られており、炉体土器を伴う。また壁際には周溝が巡る。出土した炉体土器が勝坂式土器であることから、当該時期の住居跡と想定される。



第1図 調査位置図（1/25,000）

(2) 第13次調査（第1図-2）

第13次調査では縄文時代中期の住居跡3基・土坑8基、弥生時代後期の住居跡2基、古墳時代前期の住居跡1基、中世の土坑14基、近世の溝5条、土坑26基などを検出し、縄文時代の阿玉台式土器、中世の銭貨、近世の銭貨やカワラケなどが出土している。

①第103号住居跡 直径4.5mの円形を呈する。深さは46cmである。炉は中央東寄りに作られ、火皿を伴う。壁際には周溝が巡り、住居跡中央に固い床面がみられた。住居跡の形状及び出土遺物から弥生時代後期の住居跡と想定される。

②第101号住居跡 長辺6.58m、短辺6.26mの隅丸方形を呈する。深さは約33cmである。炉は住居中央よりやや北西よりに作られており、壁際には周溝が巡る。住居北側に一部固い床面がみられた。台付甕形土器などが出土しており、遺物から古墳時代前期の住居跡と想定される。

10. まとめ

本遺跡はこれまで縄文時代、弥生時代、古墳時代の3つの時期の住居跡が確認されており、これらは13次調査においても同様であった。しかし、12次調査では縄文時代の住居跡しか確認されておらず、これまでの調査とは異なる傾向がみられた。



写真1 96号住居跡（第12次）



写真2 96号住居跡
出土土器



写真3 調査区全体写真（第13次）

さいたま市遺跡年表

時代	西暦	今から何年前	主な出来事	これまでに調査された主な遺跡（さいたま市内）	発表遺跡	
旧石器時代	BC.30,000		日本に人類が登場 さいたま市に人が住み始める	西大宮バイパス遺跡（西区宮前町） 中川貝塚（見沼区中川） 大和田高明遺跡（見沼区大和田町） 北宿西遺跡（緑区三室）・松木遺跡（緑区松木） 和田北遺跡（緑区東浦和）・明花向遺跡（南区大谷口）		
	BC.10,000	12,000	土器が作られるようになる 弓矢が使われるようになる	大丸山遺跡（西区指扇）・えんぎ山遺跡（緑区大崎）		
縄文時代	BC.8,000	10,000	土器が作られるようになる 土偶が作られるようになる 竪穴住居に住むようになる	高井遺跡（見沼区大和田町）・稲荷原遺跡（見沼区深作） 五味貝戸貝塚（西区指扇）・八雲貝塚（見沼区染谷） 大古里遺跡（緑区三室）・松木遺跡（緑区松木）	相野谷2号遺跡 （中央区上峰）	
	BC.4,000	6,000	縄文海進の最大期 内陸まで海が入り込み貝塚がつかられる	側ヶ谷戸貝塚（大宮区三橋）・貝崎貝塚（見沼区深作） 大谷場貝塚（南区南本町）・太田窪貝塚（南区太田窪） 黒谷貝塚（岩槻区黒谷）・柏崎貝塚（岩槻区柏崎） 大戸貝塚（中央区大戸）・大古里遺跡（緑区三室）	側ヶ谷戸貝塚 （大宮区三橋）	
	BC.3,000	5,000		下加遺跡（北区日進町）・八幡耕地遺跡（西区三橋） 根岸遺跡（南区根岸）・馬場小室山遺跡（緑区馬場） 櫛谷遺跡（緑区大門）・南鴻沼遺跡（中央区大戸） 御屋敷山遺跡（中央区円阿弥）・上野遺跡（岩槻区上野）	内道西遺跡 （中央区上峰） 別所遺跡 （南区別所） 南中丸下高井遺跡 （見沼区南中丸）	
	BC.2,000	4,000	大きな集落が増える	指扇下戸遺跡（西区指扇）・土呂陣屋跡（北区土呂町） 御蔵山中遺跡（見沼区御蔵）・馬場小室山遺跡（緑区馬場） 南方遺跡（緑区大門）・真福寺貝塚（岩槻区城南）	真福寺貝塚 （岩槻区城南）	
	BC.1,000	3,000	小海進があり、海が再び入り込む	東北原遺跡（見沼区東大宮）・小深作遺跡（見沼区小深作） 奈良瀬戸遺跡（北区奈良町）・大谷場遺跡（南区南本町） 馬場小室山遺跡（緑区馬場・三室） 前窪遺跡（浦和区木崎） 真福寺貝塚（岩槻区城南） 裏慈恩寺遺跡（岩槻区裏慈恩寺） 南鴻沼遺跡（中央区大戸）		
	BC.300	2,300	稲作がはじまる 金属器の技術が伝わる 方形周溝墓がつけられる 環濠集落がつけられる	原遺跡（西区水判士）・大和田本村北遺跡（見沼区大和田） 御蔵山中遺跡（見沼区御蔵）・松木遺跡（緑区松木） 大北遺跡（緑区井沼方・中尾・東浦和） 諏訪坂遺跡（中央区上峰）・南遺跡（岩槻区諏訪）		
	弥生時代		2,000		三崎台遺跡（見沼区片柳）・土屋下遺跡（西区土屋） 馬場北遺跡（緑区三室）・本村遺跡（桜区下大久保） 大谷場小池下遺跡（南区東浦和） 井沼方遺跡（緑区井沼方）・上太寺遺跡（中央区新中里） 中里前原遺跡（中央区新中里）・木曾良遺跡（岩槻区府内）	内道西遺跡 中野田中原遺跡 （緑区中野田） 側ヶ谷戸貝塚 （大宮区三橋）
		AD.300	1,700	古墳が造られるようになる	下加南遺跡（北区日進町）・別所遺跡（南区別所） 白幡本宿遺跡（南区白幡）・上野遺跡（岩槻区上野） 西浦1号遺跡（中央区円阿弥）	
					白鵜遺跡（桜区白鵜）・別所遺跡（南区別所） 白鵜塚山古墳（桜区白鵜）・御蔵台遺跡（見沼区御蔵） 本李遺跡（桜区中島）	白鵜宮腰遺跡 （桜区白鵜）
	古墳時代			仏教伝来（538） 大化の改新（645） 寺院が造られるようになる	根切遺跡（西区植田谷本）・側ヶ谷戸古墳群（大宮区三橋） 本李古墳（桜区中島）・上大久保新田遺跡（桜区上大久保） 一ツ木遺跡（南区南本町）・白鵜宮腰遺跡（桜区白鵜） 北宿遺跡（緑区馬場・三室） 礼之辻1号遺跡（中央区鈴谷）	側ヶ谷戸貝塚 （大宮区三橋）
AD.710		1,300	平城京遷都（710）	根切遺跡（西区植田谷本）・道場寺院跡（桜区大久保領家） 大久保領家片町遺跡（桜区大久保領家）		
奈良時代	AD.794		平安京遷都（794）	永川神社東遺跡（大宮区高鼻町）・宿宮前遺跡（桜区宿） 和田北遺跡（緑区東浦和）・松木遺跡（緑区松木） 東裏遺跡（緑区大門）・下野田稲荷原遺跡（緑区下野田） 府内三丁目遺跡（岩槻区府内）		
平安時代	AD.1,192	1,000	鎌倉幕府（1192） 板石塔婆（板碑）がつけられるようになる	大久保領家片町遺跡（桜区大久保領家） 大久保条里遺跡（桜区宿）・神田作田遺跡（桜区神田） 四本竹遺跡（緑区下山口新田） 北宿遺跡（緑区馬場・三室）・今宮2号遺跡（中央区鈴谷） 洪江鎌金遺跡（岩槻区村国） 平林寺遺跡（岩槻区平林寺） 岩槻城跡（岩槻区本丸・太田）	内道西遺跡 相野谷2号遺跡 別所遺跡 中野田中原遺跡	
中世			応仁の乱（1467）			
	戦国時代	AD.1,603	400	江戸幕府（1603）		
	江戸時代	AD.1,868		明治維新（1868）	土呂陣屋跡（北区土呂町） 大和田陣屋跡（見沼区大和田町） 永川女体神社警船祭祀遺跡（緑区宮本） 浦和御殿跡（浦和区常盤） 岩槻城跡（岩槻区本丸・太田） 岩槻藩遷喬館（岩槻区本町）	

令和2年度

さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会発表要旨

発行日 令和2年9月19日

発行 さいたま市教育委員会
生涯学習部文化財保護課

TEL 048-829-1724

FAX 048-829-1989

国指定史跡真福寺貝塚



最新情報

真福寺貝塚の最新情報発信中
～さいたま市ホームページ～